

I 地形・歴史 Topography & History

1 地形等

市のほぼ中央部に位置し、中小河川の白水川や宮川が貫流するが平坦部は少なく、丘陵地が大部分を占める。

当地区は、炭鉱によって発展したところであるが、現在は「病院のまち」ともいわれ、国道 6 号沿線には磐城共立病院、その隣には福島労災病院があり、福島県浜通り地方の総合医療の中心的役割を担い、市内外からの患者も多い。

2 歴史

平安時代の末期には、末法思想が流行。来るべき暗黒の世の光明を求めて、無量光仏と称された阿弥陀如来信仰が盛んになった。白水阿弥陀堂も、このような時代背景のもと、浄土式庭園をもつものとして造営された。

文明 15 年(1484)岩城氏が御台境と好間の境に飯野平(大館)城を築城、以来 195 年間戦国大名岩城氏が除封改易されるまでの居城となった。江戸時代、内町・綴・高坂・御厩・御台境・小島は磐城平藩の所領に属し、白水・宮・高野は湯長谷藩の所領に属した。

安政 2 年(1855)片寄平蔵が石炭を発見、2 年後の安政 4 年に弥勒沢等で開鉱して以来常磐炭田の端緒となる。明治時代に磐城炭礦(株)、入山採炭(株)が相次いで設立され炭鉱のまちとして栄えた。両社は、昭和 19 年に合併し常磐炭礦(株)が設立され、昭和 30 年代まで操業を続けた。

昭和 25 年総合磐城共立病院、昭和 31 年福島労災病院創設により、保健衛生都市としての性格を強める。また、昭和 38 年金谷・高坂団地の造成に着手、平のベッドタウンとしての政策が遂行される。平成 15 年には、内郷貨物操車場跡地に総合保健福祉センターがオープンした。

(参考文献:「いわき市史」、「新しいいわきの歴史」)

※行政区域の変遷

